(IV－68)　　住民評価による住宅団地のアメニティ構造

－住宅団地の外部空間における住民のアメニティ評価(その２)－

東洋大学　学生会員　齋藤　伊久太郎
東洋大学　正会員　小瀬　博之

１．はじめに

既報[1)]では住民が住宅団地の外部空間をどのようにとらえているのかを住民のアメニティ評価からとらえ、さらにそれらの要素間の関係を考察した。本報では引き続き同じアンケート結果を用いて、住民と住宅団地内のインフラストラクチャーとの関係、またはそれらとボランティア活動参加の有無などの個人属性との関係について考察をおこなったのでここに報告する。

２．住民の安らぎ感と住宅団地内のインフラストラクチャーとの関係

団地内に住むあるいは団地内の歩道を歩くことによる安らぎと、住宅団地内のインフラストラクチャーとの関係を明白にすることによって、住民にとって必要な外部空間のインフラストラクチャーの形態が明らかになると考える。そこで、7段階評価によるアンケート内の項目、「団地内に住んでいてあるいは団地内歩道を歩いていて緑や広場があることで安らぐことがあるか」と団地内のインフラストラクチャーであるベンチ、歩道、水景施設、緑に関する17の質問項目(表１)との関係を考察した。

■散布図のグラフによる比較

上記「団地内に住んで・・・安らぐことがあるか」の項目と団地内のインフラストラクチャーの項目のそれぞれとで、クロス集計をおこなった(図１)。ベンチの位置や数、デザインの質問項目では外部空間の安らぎとの関係があまりないことが分かる。それと同様に、団地内水景施設の護岸の素材や水深もその原因とは無関係であると考えられる。しかし、団地内の緑地部分の季節の変化との項目では、変化があると答えた住民ほど安らぎを感じている傾向にある。また、歩道は広い方が、草木の種類や緑の量は多い方が安らぎを感じる傾向がある。

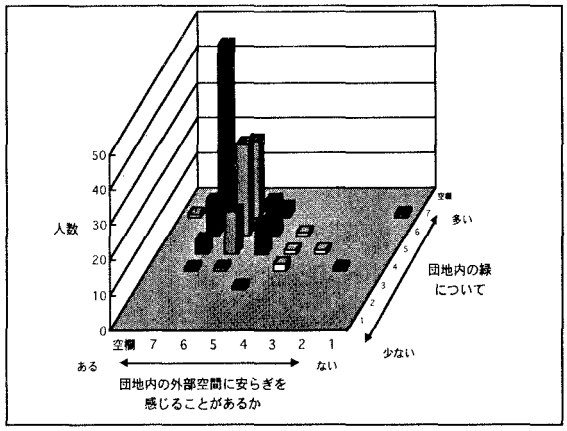

図１．団地内の外部空間に対する安らぎと緑に関する度数分布

表１．団地内のインフラストラクチャーに関する17の質問項目

歩道に関する項目
団地内の歩道についてどうお考えですか（歩きやすい－歩きにくい）
団地内の歩道の広さについてはどうお考えですか（広い－狭い）
団地内の歩道の縁石の素材についてはどうお考えですか（趣がある－趣がない）
団地内の歩道の舗装についてどうお考えですか（良い－悪い）
ベンチに関する項目
団地内のベンチの数についてはどうお考えですか（多い－少ない）
団地内のベンチの位置についてはどうお考えですか（適当である－不適当である）
団地内のベンチのデザインについてはどうお考えですか（座りたい形である－座りたくない形である）
緑に関する項目
団地内のシンボルツリーであるスダジイのある位置についてどうお考えですか（適当である－不適当である）
団地内の草木の種類についてどうお考えですか（多い－少ない）
団地内の木の高さについてどうお考えですか（高い－低い）
四季を通じて団地内の緑地部分の色彩についてどうお考えですか（変化に富んでいる－変化に乏しい）
団地内の木と木の間隔についてどうお考えですか（広い－狭い）
団地内の緑についてどうお考えですか（多い－少ない）
団地内の水景施設に関する項目
団地内の水景施設の水流の部分は一枚岩が重ねてつくられていますが、それについてはどうお考えですか（見た目上良い－見た目上悪い）
団地内の水景施設の水の深さについてどうお考えですか（浅い－深い）
団地内の水景施設の水の色についてどうお考えですか（澄んでいる－濁っている）
団地内の水景施設の岸辺の岩についてはどうお考えですか（趣がある－趣がない）

注）項目は全て７段階評価で形容詞対左側が７、右側が１の評価としてアンケートを実施した。

アメニティ、住宅団地、外部空間
東洋大学工学部環境建設学科(埼玉県川越市鯨井2100・Tel./Fax.0492-39-1532)

■被験者のカテゴリーによる比較

さらに、被験者を項目の評価で二分し考察を進めた。項目「団地内に住んで・・・安らぐことがあるか」において住宅団地の外部空間に対し、住んでいて、あるいは歩いていて、安らぎを感じない傾向（どちらでもないを含む）（評価値1,2,3,4）に評価した被験者をカテゴリー1とし、安らぎを感じる傾向に評価した被験者（評価値5,6,7）をカテゴリー2とした。これに対し、インフラストラクチャーに関する4種類20の質問項目（表1）において各評価における回答率のグラフを作成した（図2,3）。このグラフより、カテゴリー1ではほぼ全ての質問項目で評価値6,7をつけた住民がいない。また、カテゴリー2の住民は評価値5,6,7に集中する傾向がみられる。特に草木の種類の数についての質問項目では、カテゴリー1では3,4,5に集中している一方、カテゴリー2では5,6,7に集中している。草木の種類において、外部空間に安らぎを感じていない住民は安らぎを感じている住民よりも、草木の種類が少ないと考えていることを示している。また緑の量についての質問項目でも、安らぎを感じている住民ほど緑が多いと考えていることが分かる。

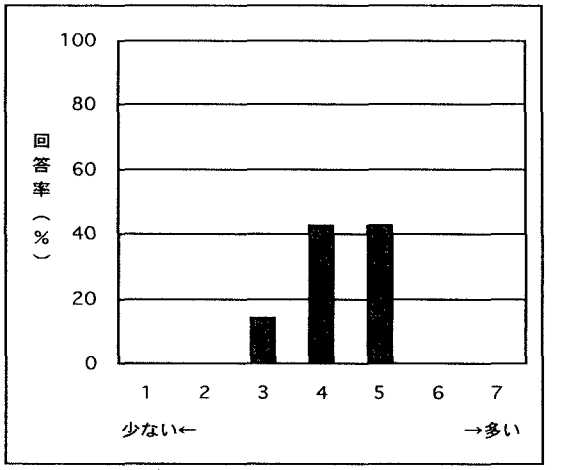

図2．カテゴリー1における団地内の草木の種類についての項目と回答率

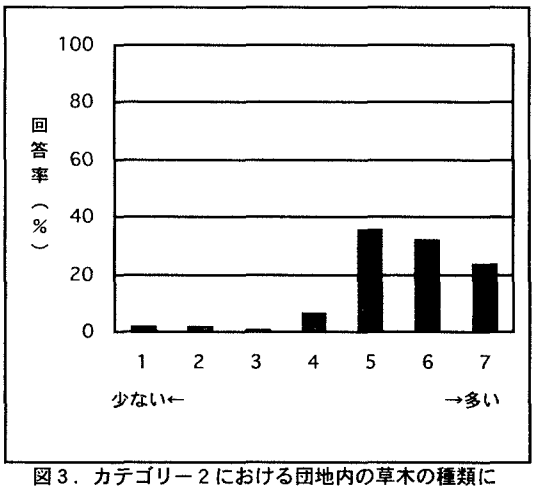

図3．カテゴリー2における団地内の草木の種類についての項目と回答率

3．住宅団地の外部空間のインフラストラクチャーと住民の属性との関係

上記の結果から、それぞれのカテゴリーにおける住民の属性との因果関係を調べた。各質問項目でボランティア活動に参加している住民は、全てカテゴリー2に属していることが分かる。しかし、この住民と項目の評価値との間に顕著な傾向はみられなかった（図4）。またカテゴリー間で評価6,7の有無が顕著に表れた歩きやすさ、歩道の縁石の趣き、緑の量、草木の種類に関する4つの項目において、カテゴリー2に所属する住民の属性に関する住棟、階層、居住年数についてその頻度、回答率で考察したが、顕著な関係は見られなかった。

4．まとめ

住宅団地の外部空間に対する安らぎとインフラストラクチャーとの関係において、その形態の傾向をつかむことができた。しかし、これらのインフラストラクチャーは、その単体での形態が安らぎ感をもたらすものではなく、それらの総合的な形態が安らぎ感をもたらすものであると考えられる。また、これらの関係に住民の属性は関係はなかった。すなわち、住宅団地の外部空間からもたらされる安らぎは形態そのものに集約されると考えられる。

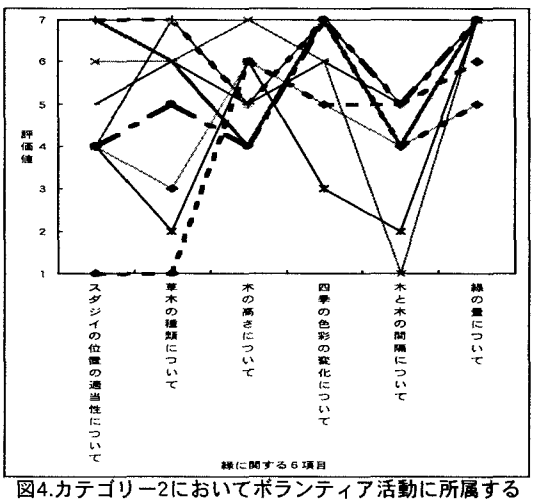

図4.カテゴリー2においてボランティア活動に所属する住民（9人）の緑に関する6項目と評価値

参考文献

1）齋藤伊久太郎、小瀬博之：住宅団地の外部空間における住民のアメニティ評価、土木学会第55回年次学術講演会講演概要集、Ⅳ－217、2000